

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 雅博 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009651

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

かとう まさひろ

加藤 雅博 (北海道区水産研究所 さけます生産技術部 技術課)

2015 年の北太平洋

漁獲数

NPAFC 統計データによると、2015 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 5 億 680 万尾で、前年 3 億 8,885 万尾の 130%でした (図 1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 3 億 1,320 万尾で全体の 62% (前年比 151%) を占めています。次いでサケが 1 億 820 万尾 (構成比 21%, 前年比 111%)、ベニザケが 7,428 万尾 (構成比 15%, 前年比 108%) と続き、これら 3 魚種で全体の約 98% を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 906 万尾 (前年比 72%)、200 万尾 (前年比 90%) となりました (図 1A)。地域別では、アラスカが 2 億 6,831 万尾と最も多く、以下、ロシア 1 億 8,787 万尾、日本 4,159 万

尾、カナダ 543 万尾、アラスカ以外の米国 (ワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州) 345 万尾、韓国 16 万尾と続いています (図 1B)。

人工ふ化放流数

2015 年 1-12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 51 億 6,240 万尾で、前年 53 億 1,104 万尾の 97%でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 32 億 285 万尾で 6 割以上を占め、これに次ぐカラフトマス 13 億 6,453 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます (図 1C)。地域別では日本が 18 億 7,434 万尾、アラスカ 16 億 4,899 万尾、ロシア 10 億 2,333 万尾、カナダ 2 億 9,476 万尾、アラスカ以外の米国 2 億 9,333 万尾、韓国 2,765 万尾となっています (図 1D)。

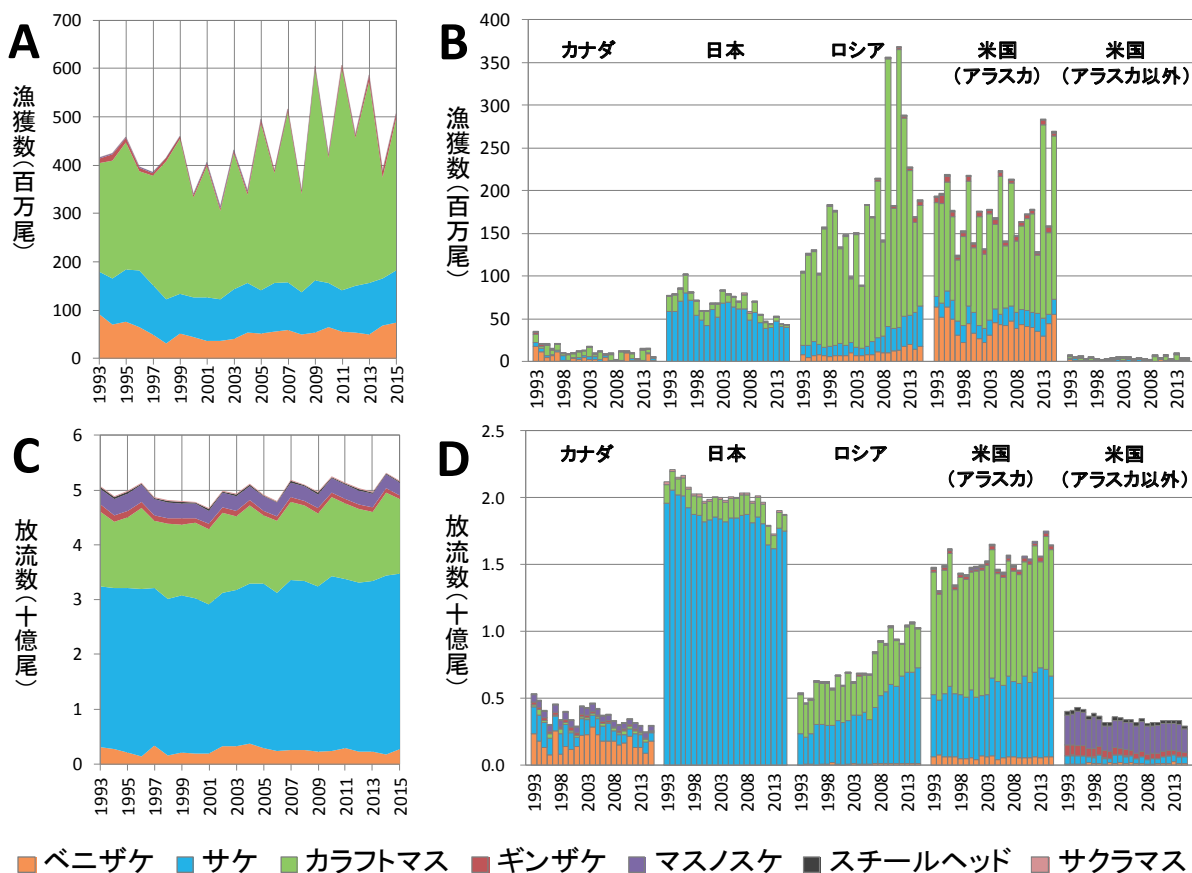


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 20 July 2016)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 20 July 2016)」より作成 (参照 2016-11-24)。ただし、2011 年の放流数は未収録となっている本州太平洋サケ放流数を加算。アラスカ以外の米国はワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略。

2016 年度の日本

サケ

2016 年度の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 3,140 万尾、前年同期比 71%となっています。このうち北海道では 2,578 万尾（前年同期比 70%）と、24 年振りに 3,000 万尾を下回りました。本州太平洋側では 497 万尾（前年同期比 83%）と、2011 年度以来の低水準となっています。また、本州日本海側では 64 万尾（前年同期比 51%）と前年度を大きく下回っています（図 2）。採卵数は、12 月 31 日現在で 18 億 4,783 万粒と、前年同期の 91%となっています。このうち北海道では、11 億 9,883 万粒と採卵計画数の 99%の種卵が確保されていますが、本州では、岩手県で台風 10 号によって増殖施設が大きな被害を受けたこともあり、12 月 31 日現在で、6 億 4,900 万粒と前年同期の 84%に留っています。全国の放流数は計画（17 億 6,443 万尾）を下回る見込みです。

カラフトマス

主産地の北海道における 2016 年度の来遊数は 890 万尾で前年度比 423%でした。カラフトマスの来遊数は最近 5 年ほど低迷していましたが、2016 年度の来遊数は 2009 年度以来の水準となりました。採卵数は、根室海区で前年度の 68%の捕獲数に留まったことから、1 億 3,632 万粒と計画数の 79%となりました。放流数も計画（1 億 3,840 万尾）を下回る 1 億 900 万尾ほどになると見込まれます（図 3）。

サクラマス

2016 年度の北海道における河川捕獲数は 6,929 尾で前年度比 101%となりました。今年度は前年度に続き、比較的少ない捕獲数でした。地域別には日本海区では前年度比 347%の捕獲数でしたが、オホーツク海区では前年度比 43%の捕獲数でした。採卵数は 699 万粒で、計画数 502 万粒を十分満たす数となりました。なお、2011-2016 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

ベニザケ

2016 年度の北海道 3 河川（安平川・静内川・釧路川）における河川捕獲数は 268 尾で前年度比 377%となりました。

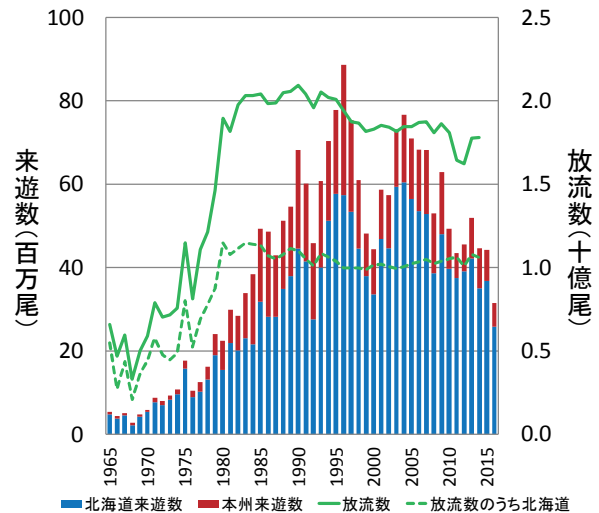


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数. 2016 年度来遊数は 12 月 31 日現在.

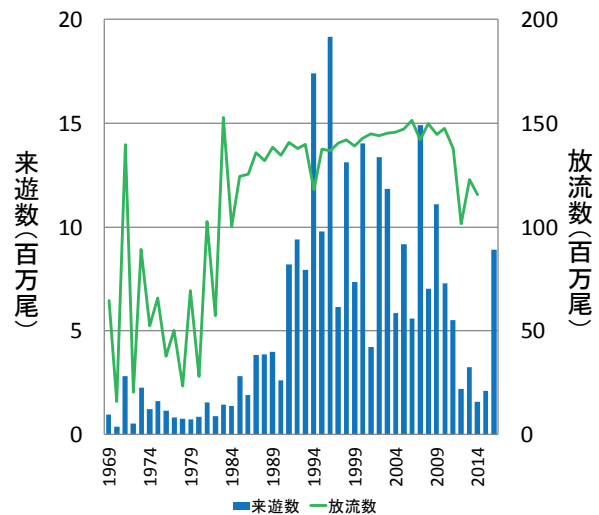


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数

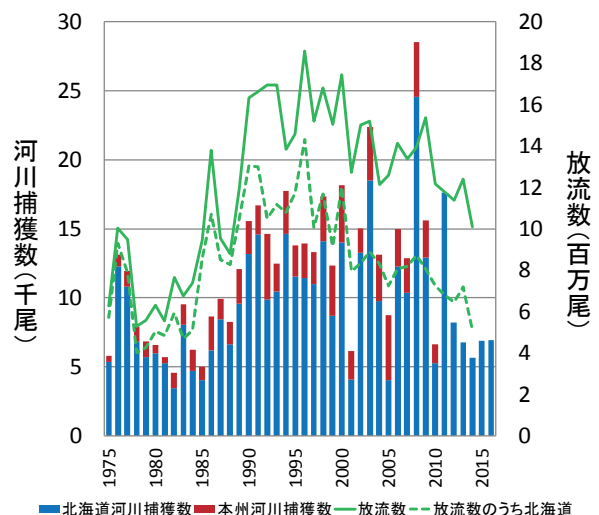


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数. 2011-2016 年度の本州河川捕獲数は確認中.